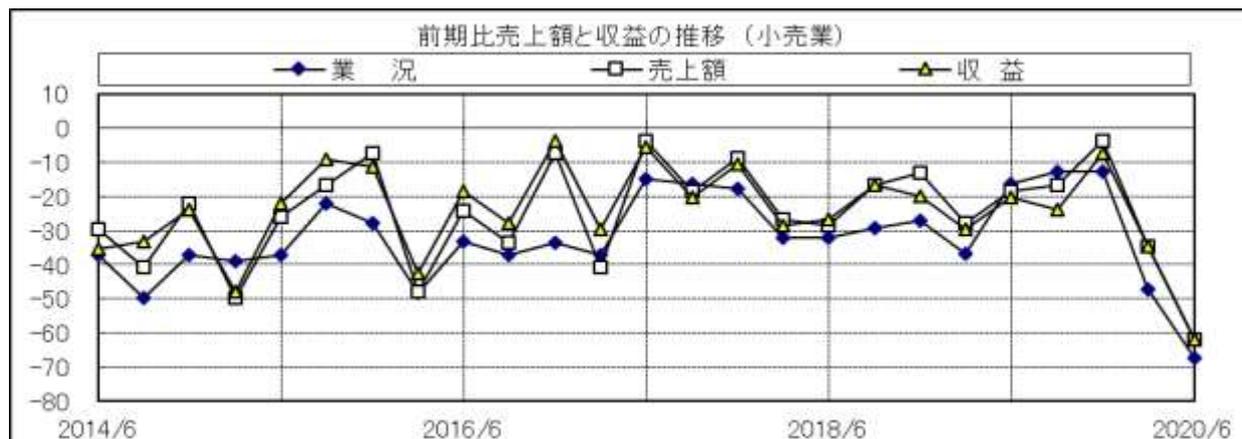


小売業 55企業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績
業況	-12.7	-47.3	-67.2	-76.4
売上額	-3.6	-34.5	-61.8	-58.1
収益	-7.3	-34.6	-61.8	-60.0

今期の業況判断 D.I. は△67.2 で、前期比 19.9 ポイント下降した。前年(△16.4)比 50.8 ポイント下降した。地区別の D.I. は高い順に、静内が最も高く、三石、えりも、浦河、様似と続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D.I. は△61.8 で、前期比 27.3 ポイント下降。収益判断 D.I. は△61.8 で、前期比 27.2 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
販売価格	12.7	-1.8	-14.5	-3.6
仕入価格	29.1	18.1	7.2	10.9

販売価格判断 D.I. は△14.5 で前期比 12.7 ポイント下降、前年(5.4)比 19.9 ポイント下降した。仕入価格判断 D.I. は 7.2 で前期比 10.9 ポイント下降、前年(16.4)比 9.2 ポイント下降した。業種別の販売価格は、衣料・食料・家電品全てが下降、仕入価格は、衣料・家電品が横ばいで、食料品が下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	-11.0	-10.9	-11.0	-9.1
人手状況	-21.9	-9.1	-16.4	-16.4

残業時間判断 D.I. は△11.0 で、前期比 0.1 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合がやや増えた。

人手過不足判断 D.I. は△16.4 で、前期比 7.3 ポイント下降し、人手不足感が強まった。

□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 20.0$ で、前期($\Delta 12.7$)比7.3ポイント下降した。

設備実施企業割合は3.6で、前期(0.0)比3.6ポイント上昇した。設備投資は、前期0社に対し実施は2社となった。来期の設備投資の予定は4社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が72.2%と最も多く、次に「商圈人口減少」50.0%、「大型店競合」29.6%、「同業者競合」18.5%、「取引先減少」16.7%、「値上げ要請」13.0%、「地場産業衰退」9.3%、「人手不足」・「利幅縮小」・「商店街集客力低下」5.6%、「店舗老朽化」3.7%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が74.5%と最も多く、次に「売れ筋商品取扱い」29.1%、「品揃え改善」・「宣伝広告強化」が23.6%、「人材確保」10.9%、「新事業開始」・「店舗設備改装」・「仕入先開拓」が5.5%となった。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 76.4$ と、今期比9.2ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 58.1$ と、今期比3.7ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 60.0$ と、今期比1.8ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は $\Delta 3.6$ と、今期比10.9ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は10.9と、今期比3.7ポイントの上場を見通している。

サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
業 況	-30.1	-51.7	-63.3	-66.7
売上額	-16.6	-55.2	-59.9	-50.0
収 益	-16.6	-53.3	-56.6	-50.0

今期の業況判断 D. I. は△63.3 で、前期比 11.6 ポイント下降、前年(△6.7)比 56.6 ポイント下降した。地区別の D. I. は高い順に、三石が最も高く、次に静内、広尾、様似、浦河と続き、えりもが最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△59.9 で、前期比 4.7 ポイント下降した。収益判断 D. I. は△56.6 で、前期比 3.3 ポイント下降した。



□ 価格面の動きと前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
料金価格	3.3	-16.7	0.0	-3.3
材料価格	33.4	13.3	10.0	0.0

料金価格判断 D. I. は 0.0 で前期比 16.7 ポイント上昇、前年(3.4)比 3.4 ポイント下降した。材料価格判断 D. I. は 10.0 で、前期比 3.3 ポイント下降、前年(10.0)と同水準となった。業種別の、料金は、旅館、自動車整備が上昇、洗濯美容は横ばい。材料は、旅館は横ばい、洗濯美容が下降、自動車整備は上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期見通し
残業時間	10.0	-3.3	-10.0	-10.0
人手状況	-13.4	-26.8	-13.3	-10.0

残業時間判断 D. I. は△10.0 で、前期比 6.7 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△13.3 で、前期比 13.5 ポイント上昇し、人手不足感が弱まった。

□ 設備投資の動き

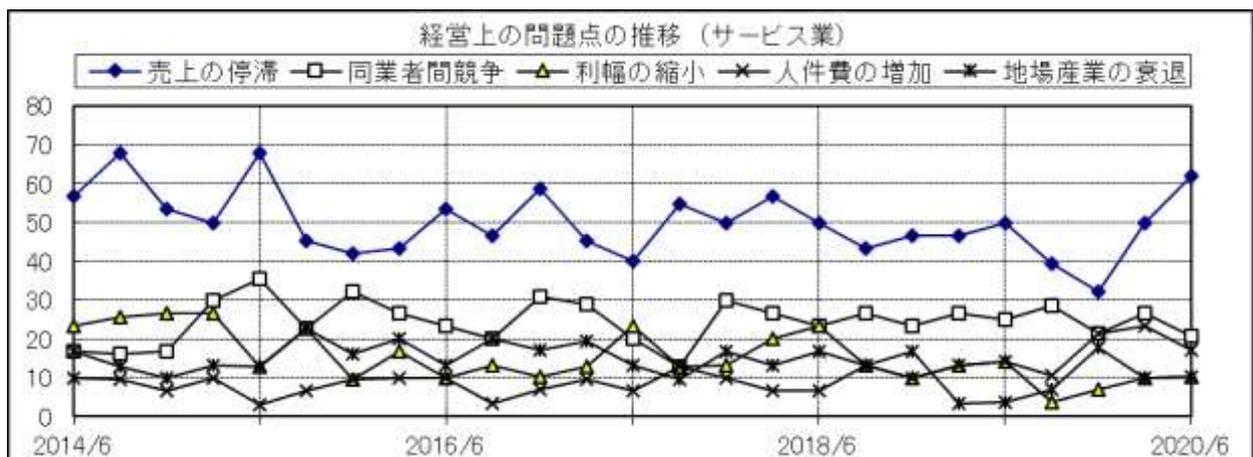
設備投資の充足感を示すD.I.は $\Delta 3.4$ で、前期($\Delta 6.7$)比3.3ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は10.0で、前期(13.3)比3.3ポイント下降した。設備投資は、前期4社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は5社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が62.1%と最も多く、次に「商圈人口減少」44.8%、「同業者競合」20.7%、「人手不足」・「人件費増加」・「取引先減少」が17.2%、「利幅縮小」・「地場産業衰退」が10.3%、「材料価格上昇」6.9%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が60.0%と最も多く、次に「販路拡大」50.0%、「宣伝広告強化」33.3%、「人材確保」16.7%、「技術力強化」10.0%、「店舗設備改善」・「連携先確保」が6.7%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は $\Delta 66.7$ と、今期比3.4ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D.I.は $\Delta 50.0$ と、今期比9.9ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D.I.は $\Delta 50.0$ と、今期比6.6ポイントの上昇を見通している。

予想料金価格判断D.I.は $\Delta 3.3$ と、今期比3.3ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断D.I.は0.0と、今期比10.0ポイントの下降を見通している。